

科学的な事故（傷害）予防を地域で実践したこれまでの10年を振り返る

出口貴美子（認定NPO法人 Love & Safety おおむら 代表理事）

（キッズ&ファミリークリニック出口小児科医院 院長）

21世紀の子どもの事故（傷害）予防のブレークスルーは、職域の異なる小児科医の山中龍宏氏と工学博士の西田佳史氏の出会いによって生まれた『科学的な根拠に基づく傷害予防を社会に循環させる仕組み作り』が始まった事である。そして人々の認識を、これまでの避けることができないアクシデントから‘予防可能な傷害’という概念に変えた事だと思う。

2012年に吉川優子さん豊さんご夫妻の最愛なるご子息の慎之介くんが、お泊まり保育の川遊びで予告なく天に召された。後にこれは予防可能な事故あったことが裁判を通し検証されるが、慎之介くんの時が止まったままの面影を胸に、底知れぬ悲しみや苦しみを抱えながら、この惨事を二度と繰り返してはならないと吉川さんご夫妻自らが、裁判や検証に関わった職種の異なる応援団と一緒に立ち上げた『吉川慎之助記念基金・日本子ども安全学会』は歴史的ブレークスルーと考える。

ちょうどその頃、すべての女性が輝く社会づくりの政策が打ち出され、経済成長の歯車としての女性の活躍が期待される一方で、命を産み育てる女性の多様性との整合性がつかないまま、その躰寄せとして子どもを見守る環境が一部破綻したことが要因となり、保育園での死亡事故が相次いだ。その事故がマスコミに取り上げられ、SNSなどの普及により世論の動きとなって、2016年に内閣府から「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」が打ち出された。

その後、小児科医でもある自見はなこ参議院議員の子ども真ん中の政策の推進もあり、2018年に成育基本法が成立し『チャイルド・デス・デビュー(CDR)』が盛り込まれた事は、法整備を見据えた大きな進歩であった。これが法制化すれば、ようやく子ども目線での安全な環境が整備されるだろうと期待はしているが、依然として子どもの予防可能な事故は繰り返されており、重大事故にならずとも子どもの健全な心理社会性の育ちを妨げる大人の行為や虐待が社会問題となっている。さらにこの数年は、コロナパンデ

ミックやロシア・ウクライナ戦争のように思いもよらぬ世界的な出来事に子ども達や若い世代が翻弄され、将来の人生設計として子どもを持つことさえ躊躇する若者達をどう支えていくかが次の10年日本の大きな課題であろう。

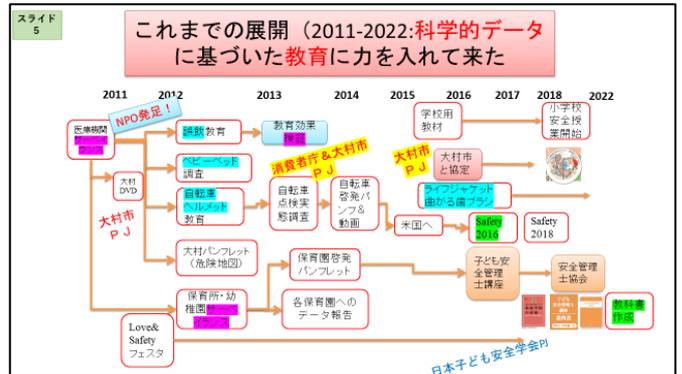
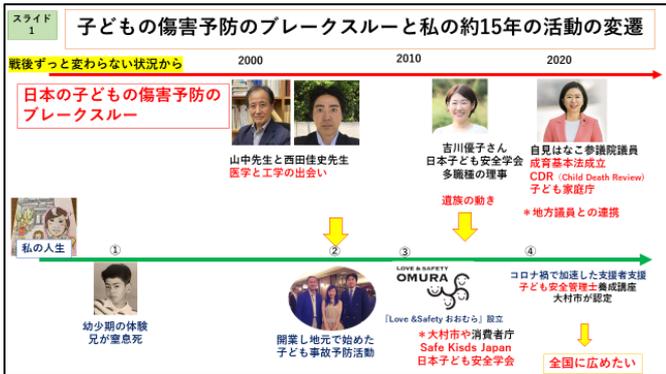
さて、私の子どもの事故予防活動は、父のクリニックを継承するために約20年ぶりに地元に戻った2006年から始まった。幼少期に障害児であった兄を窒息事故で失い、その兄を抱きしめていた母の後ろ姿が目には焼き付いているが、最近ようやく、同じく小児科医であった父の想いに心を寄せることができるようになってきた。

私個人のブレークスルーとしては、開業した年に夫の紹介で偶然にも西田氏と繋がったことと考える。これまでの活動の多くは、2019年の子ども安全研究に投稿しているので割愛するが、地元愛の結集でもある『Love & Safety おおむら；子どもを事故から守るプロジェクト』が2011年3月6日の東日本大震災の5日前に動き出した事や、2014年に吉川優子さん豊さんご夫妻との出会いや夫の井上健（精神科医、日本子ども安全学会理事）の存在、そして縁の下の力持ちであるLove & Safety おおむらの事務局や出口小児科スタッフの心辛抱強い協力がなければこの活動は継続できなかったと思う。

2017年から毎年大村市で開講している「子ども安全管理士講座」も、2022年度の第6期生が卒業すると総勢200名を超える。子ども安全管理士は、科学的な根拠に基づく傷害予防に関する知識を習得した専門家であり、それぞれの生活や仕事の場でその知識をもとに傷害予防を実践することが期待されている。今後彼らの活躍を通して全国にその存在が認知され、同様のシステムが各自治体で行われるようになれば、日本の子ども達を取り巻く環境や社会がより安全で安心なものに変わり、ひいては子ども達が傷害にあうことなく、思い切りチャレンジし成長できる世の中になるであろう。

これまで幸運にも繋がった方々との出会いに感謝

し、「伝える」、「繋がる」、「切れ目のない支援」のライフタイムを意識した子どもの事故予防活動を目指し、継続したい。



スライド 2 地域で取り組む意義； 連携しやすい環境がそこにある

- 生まれ育った土地である；**地元愛**
- 先祖代々からの繋がり；**先祖の顔繋がり**
- コミュニティは既にある；**一から頑張らなくてもOK**
- 開業医として；**かかりつけ医、園医、学校医の立場での信頼関係や医師会関連での地域との繋がり**
- この土地で出来た事を他の地域に知らせるといい事があるかも？

スライド 6 今日から皆さん達は、子ども安全管理士です！

子ども安全管理士とは

全ての子どもが平等に幸せに育つために；

- 安全を優先し、愛情豊かに、みんなで子育てができる環境を追求するスペシャリスト
- 確かな知識を習得する努力を惜しまず、得られた知識を活用し、子どもを最優先として安全な環境を整えるためのリーダーである



スライド 7 全国の子どもの安全管理士講座

- 2015年2月；吉川慎之介記念基金 子ども安全管理士講座開設
- 2017年4月；長崎県大村市 子ども安全管理士養成講座開設
- 2020年1月；愛媛県西条市 子ども安全管理講座開設



スライド 8 第6期 教育・保育施設等における 子どもの安全管理士養成講座のご案内

子ども安全管理士は、子ども達の命を守り、安全安心な環境を保障するために、あらゆる知識と実践力を身につけ、子どもの育成に貢献するスペシャリストです。

講座内容

ガイドラインの徹底 リスクマネジメント 子どもの傷害予防の3E 流れ

アレルギー 熱中症、脳産暈 交通事故 遺族の話 法律

事故が起きた時の対応 地域連携での活動方法

行政(大村市)認定の資格 日本初の取り組み

講義の流れ 毎月一回 一年で10回の講座 オンデマンドあり 宿題、感想 小論文 (審査あり)

スライド 9

子ども安全管理士協会 2019.4.11.設立

LOVE & SAFETY
OMURA

- 子ども安全管理士として活躍するための団体
- 子どもの育成の場において、科学的に子どもの安全を追求し予防できる事故から子どもの命を守る活動を行う
- 子ども安全管理士のスキルアップのための勉強の場とする
- 役に立つ情報発信
- 社会への貢献

スライド 13

切れ目のない支援の中で、子どもの傷害予防を！

子どもの傷害予防は、**ライフサイクル**；次世代を意識して！

スライド 10

Love & Safety の広がり

Love & Safety おおむら
Love & Safety いさはや
Love & Safety させぼ

Love & Safety さいじょう

スライド 14

まとめ

LOVE & SAFETY
OMURA

目標：子どもの命を守りたい！という
みんなの願いを形にして結果を出す

- 地方には**地元愛**があり、そこで育まれる未来ある
子ども達の命を守ることはとても重要
しかし、**どのように伝えるか**が課題

その中で、

- 地域に密着した活動で得た信頼ある**データに基づいた科学的な情報**が
人との繋がりの架け橋となる
- 小児科医**としての繋がりや、**育った土地での繋がり**などを活用し、教育の
充実、環境改善、政治への働きかけを行うことが可能となる

スライド 11

子ども達の傷害予防に関わる繋がりから生まれた構図

スライド 12

今後の課題

子どもの傷害予防が定着しない。
そこには何が？

Missing something..